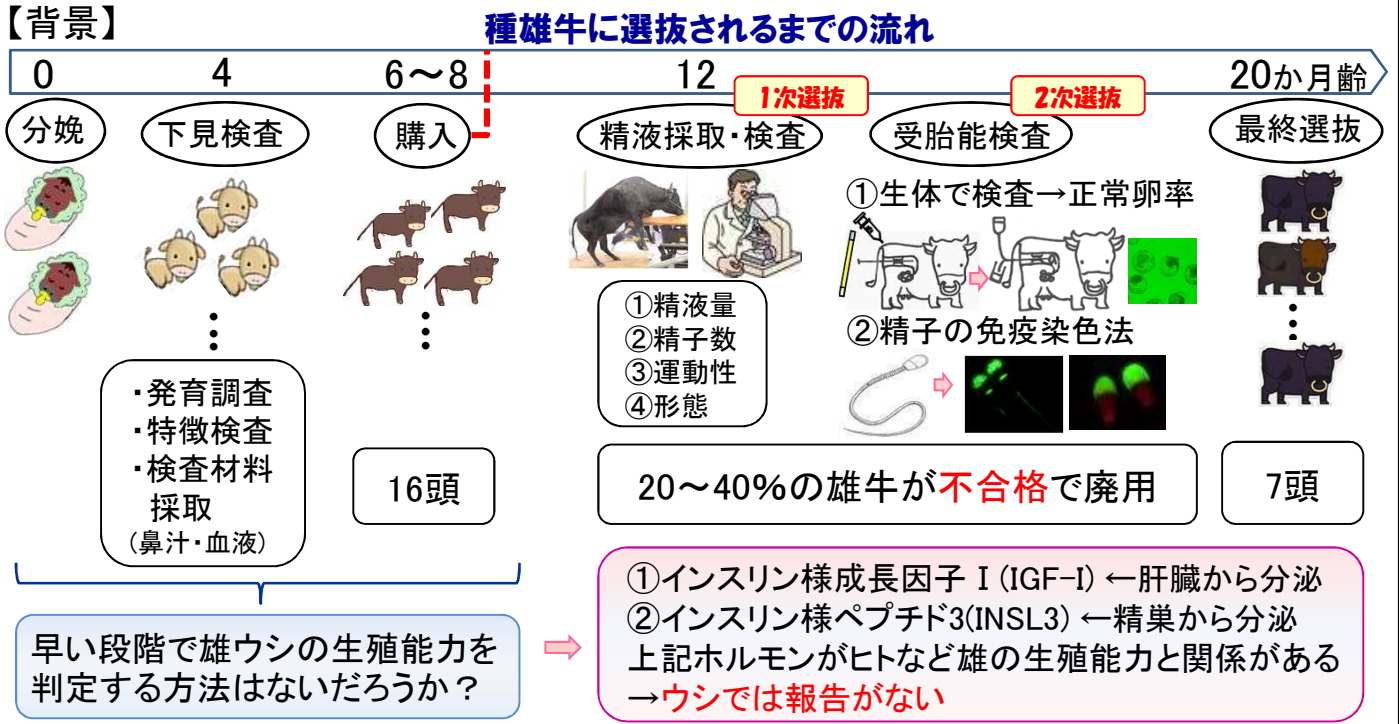
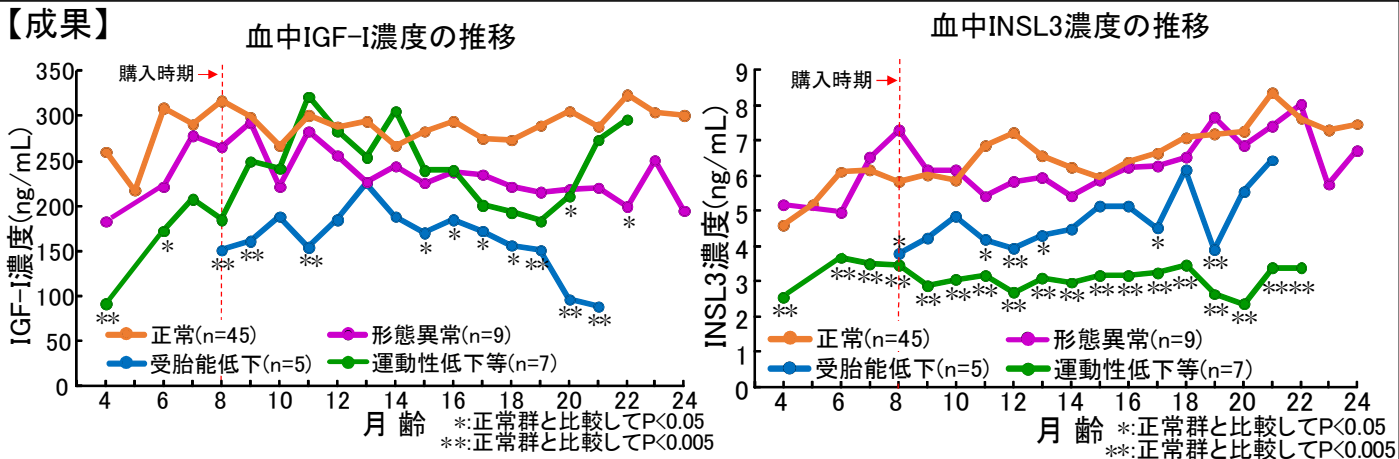
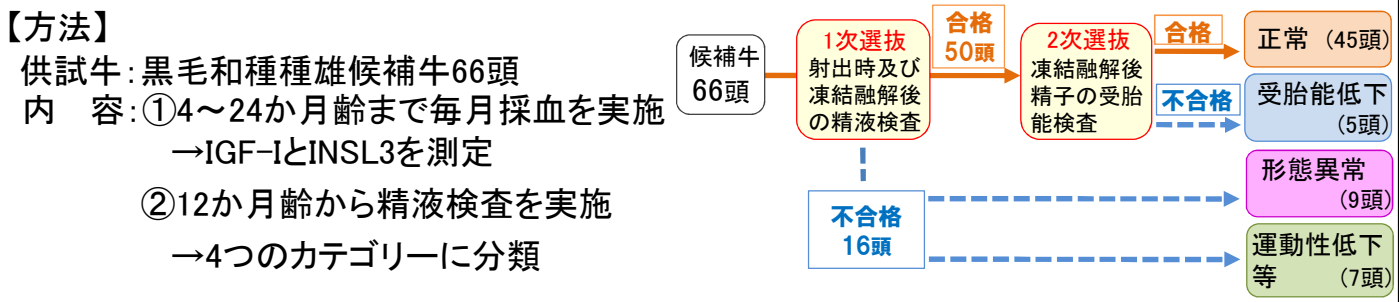


# 生殖関連ホルモンの測定による雄性生殖能力低下雄牛の検出



**【目的】**  
黒毛和種雄牛の精液性状と血中IGF-I及びINSL3濃度の関連性を解析 → **生殖能力の指標として活用**



⇒ 精子受胎能低下の候補牛で低く推移

⇒ 精子の運動性低下等の候補牛で顕著に低く推移

**【まとめと活用方法】**  
雄ウシにおいて、IGF-I及びINSL3は精液性状と関連があり、生殖能力低下雄ウシの早期検出に活用できることが判明した。今後は、購入・導入前にホルモン濃度を測定して、正常な生殖能力の雄牛の導入が可能となる。精液性状低下の要因は多岐にわたり、原因の特定は困難とされているが、今回の生殖関連ホルモンの測定と以前に開発した精子の免疫染色法による受胎能検査を併せることで、生殖能力に関して精度の高い評価及び選抜が可能となり、但馬牛の改良に貢献できる。